学校ボランティア通信（平成27年12月22日）平成27年度第5号　学校ボランティア支援室

自分の立ち位置・視点を明確にして見取る

学び合う子どもの姿，教師の発問・指示，授業の展開，そして，卒業論文等との関連～

福島市立福島第三小学校・福島第四中学校編

平成 27 年 12 月 22 日現在，**学生ボランティア数** 47 名。内訳は，2 年 6 名，3 年 23 名（うち理工 2 名），4 年 18 名になります。教員採用試験を終えた 4 年生も，教壇に立つ前に，できるだけ現場の実際・雰囲気に触れたいと活動を再開しています。今回の学校ボランティア通信は，**福島四中と福島三小**で学校ボランティアをしている学生からの**報告**です。

【福島第四中学校】

実践的指導力のある教員を目指して

人間発達文化学類　文化探究専攻

4年　江花　理奈

私は教員採用試験を終え、今年の秋から学校ボランティアを再開しました。学校ボランティアを再開した理由は、現場に出る前に少しでも経験を積みたいと思ったためです。採用試験を通して、勉強すればするほど、自分の知らないことがたくさんあることに気づきました。その中でも特に特別支援教育に関する知識や経験がとても浅く、現場でもっと勉強したいと思うようになりました。現在は主に特別支援学級で活動をさせていただいています。特別な支援を必要とする生徒と関わることが初めてだったため、初めは不安でいっぱいでした。しかし今では、特別支援教育に対するイメージが大きく変わり、毎週生徒たちととても楽しく活動しています。また、先生方の生徒に対する声掛け、場に応じた対応、対応するときの表情など勉強になることもたくさんあり、とても充実した時間になっています。

以前、ある先生から「特別支援教育は教育の原点だ」という話を聞きました。特別支援教育に携わらせていただき、その言葉の意味が少しずつわかってきました。生徒ひとりひとりをよく理解し、それぞれの生徒にあった対応をすることの重要性を毎回の活動で感じています。今後は、先生方から学んだことを私自身が実践にうつすということを課題とし、残りの活動に取り組んでいきたいと思います。4 月から教壇に立つという意識をもって、たくさんのことを吸収していきたいです。

「特別支援学級」，生徒と同じ目線で

生徒3人の学級では，貴重な対戦相手に

左「信夫山で総合的な学習の時間」右「EAA＋学級担任による外国語活動」(5年生)学習支援

【福島第三小学校】

学校ボランティアで共に成長していく

人間発達文化学類　人間発達専攻

3年　高坂　琴香

私は，今年の10月から学校ボランティアを始めました。教育実習を終えた時，教師になりたいという希望を持つと同時に，「このまま教師になったところで自分は やっていけるのだろうか」という不安を抱きました。そして，もっと現場で学びたい！と思ったのがきっかけです。今は，週に1度，第三小学校の主に5年3組の子どもたちと一緒に勉強しています。行ってみると，座学では学べないことばかり。本当に良い経験になっています。この前は，隣のクラスの校外学習に一緒に行き，クラスによる教師の関わり方や子どもたちの違いを見ることができました。それに，週1回子どもたちと会って，関わることが楽しみで，教員採用試験の勉強も頑張ろうと思える原動力になっています。

最近では，子どもたちをどう指導していったらいいのかが難しいと感じています。何がいけないことか自分の中にしっかりした基準もなく，注意しても大事なことが伝わらないことも多いためです。担任の先生は，中学，高校，そして大人になったときと子どもの将来も見据えて子どもたちを指導していらっしゃいました。

だから，宿題など何か約束ごとを忘れた時はきちんと謝らせ，苦手なことから逃げようとするときは，全体の前でもしっかり指導されています。

これからは，先生の大事にしているものも汲み取りながら，「どんな風に成長していってほしいか」「何を大事にするか」といった自分の教育観も確立していきたいです。長期的に関わらせていただくので，学級経営の仕方にも目を向けていくとともに，子どもたち一人一人の良さに目を向けて信頼関係を築いていきたいと思います。

【学校ボランティア支援室から】

□ ボランティア学生の皆さんに活動を振り返ってもらうと，**貴重な学び**をしている例が多い。**活動の価値付け**をしたり，**今後の見通し**をもったりするためにも，学生ボランティア**支援室に**ぜひ**足を運んでほしい**。